

本校が目指す5年後の姿（具体的な目標）

① 学校の現状や課題

[現状]

- 入学者は地元鹿角地域出身者がほとんどで、特に十和田地区からの生徒が半数近くを占めているが、他地域からも微増している。
- 本地区内の中学校卒業生数の減少により、ここ数年入学者数が定員を下回っている。それにより、入学者の学力や学習意欲の低下が懸念される。
- ボランティア活動や地域行事への参加に意欲的で、地元の小中学校との交流や地域との連携を大切にしている。
- 部活動では、スキー部が毎年全国大会で入賞するなど意欲的に活動している。また、他の部活動においても更なる活躍が期待できる。
- 進路希望は多岐にわたり、進学と就職の比率はほぼ半数である。進学は四年制大学、短大への進学者が減少し、専門学校への進学者が増加している。就職は、地元就職者が増加している。

[課題]

- ここ数年、入学者数が募集定員を下回っているため、学校の魅力を高め、地域に発信していくことが求められる。
- 少子高齢化の時代において、将来、地域で生活をし、地域を活性化できる人材の育成が求められる。
- 生徒の積極性を引き出して、情報発信能力を向上させる必要がある。
- 学校活性化のためにもスキー部以外に東北大会や全国大会に出場できる部活動を育てる必要がある。
- 国公立大学をはじめとする四年制大学への進学者数や公務員就職者数の増加と高度な資格取得を目指し、個に応じた手厚い指導が必要である。

② 学校を取り巻く将来の状況の予測

- 鹿角・小坂地区の中学校卒業生数は減少を続け、平成37年3月中学校卒業生数は、約260名となることが予測されている。このうち、地区内の高校への入学者数は約220名と予想され、平成27年度の地区内の高校への入学者数より75名程度の減少が見込まれる。それにより、平成37年度までに2～4の学級減が計画されている。
- 第七次秋田県高等学校総合整備計画により、本校を含め鹿角・小坂地区の3高校の統合が予定されている。
- 人口減により、地域行事やボランティア活動において、高校生の若い力が大いに必要とされると考えられる。
- 現在同様、生徒の進路希望が多岐にわたると予測される。
- 地方にいても、グローバルな視点から行動できる人間が必要とされる。

③ 目指す方向性や学校像

十和田高校校訓

地域とのつながりを大切にし

地域創生の担い手となる

発信力のある人材が育つ学校

純 剛 忍



育てたい人間像

「純・剛・忍」の精神のもと、地域を学び、

地域を愛し、地域に貢献する人間

純・・・純真謙虚な気持ち

他者を尊重しお互いを認め合い、元気な挨拶や受け答えができ、  
高校生としてふさわしい身だしなみができる。

剛・・・勇気と努力

目標を設定し、その目標実現のために  
自信を持って自ら努力することができる。

忍・・・辛抱強さと寛容の心

困難なことがあってもあきらめず、  
何事も最後までやり遂げることができる。

④ 5年間で達成を目指す具体的目標

純

- ・学校評価アンケートの生徒指導に関する項目で平均4以上（満点5）を目指す。
- ・全員が毎年「かづの学（ふるさと教育）」の活動に積極的に取り組む。
- ・全員が地域の行事・文化活動やボランティア活動に継続的に参加する。（年1回以上）

剛

- ・運動部は全県大会で団体ベスト8、個人ベスト4以上、東北大会出場を目指す。
- ・文化部は全県大会入賞以上を目指す。

忍

- ・就職内定率、進学第一志望達成率100%を目指す。
- ・四年制大学合格者10名以上（うち国公立大5名以上）を目指す。
- ・英検・漢検3級以上、商業科各種検定3級以上の全員合格を目指す。

## 具体的な取組等

### ⑤ 具体的な取組等

#### 純

- ・挨拶の励行、清潔な服装、遅刻の絶無など規律ある学校生活を送るよう全校で取り組みます。
- ・「かつの学（ふるさと教育）」への取組を更に充実させ、主体的・探究的に課題研究に取り組み、研究成果を発表し、地域に発信します。
- ・毛馬内盆踊りや花輪ばやしなどの伝統ある郷土芸能に参加します。
- ・地域の様々なニーズにいつでも対応できるボランティア活動を全校で実践します。
- ・「十高だより」の内容を更に充実させて、月1回地域に学校の情報と魅力を発信します。

#### 剛

- ・中学校や地域の人材と連携し、長期的展望に立った、地域に根ざした部活動を運営します。
- ・部活動加入率100%を目指し、技術指導だけではなく、人間力の向上を目指します。
- ・秋田県内のみならず、地理的条件を生かして北東北3県等へ遠征し練習試合を行い、部活動強化を図ります。

#### 忍

- ・学び直しに積極的に取り組み、分かりやすい授業の実践により、生徒の学力向上を図ります。授業への取組「具体10項目」を実践します。
- ・小中学校と連携しながら、主体的・協働的な授業を目指し、積極的に授業改善に取り組みます。
- ・全職員が全校生徒と面談してアドバイスするキャリアカウンセリングを更に充実させます。
- ・進路目標実現のために、上級資格取得を奨励し、課外授業を強化します。
- ・生徒の実態にあった教育課程の見直しを行います。

[参考資料]

## 授業への取組「具体10項目」

- 1 授業のはじめと終わりの挨拶と指名を受けた際の返事をしっかりさせる。  
(授業における規律)
- 2 生徒の実態を踏まえ、毎時の学習内容の精選を図る。  
(本時で何を教えるか、何を身に付けさせるのかを絞り込む)
- 3 本時の学習に見通しが持てるような目標を示す。  
(目指す姿をイメージさせ、関心・意欲を高める)
- 4 本時の学習目標に迫る学習課題の設定や発問を意図的に行う。  
(知的好奇心の喚起、努力すれば解決できる課題、考えを引き出す発問)
- 5 言語活動の一層の充実を図る。(思考力、判断力、表現力の育成)
- 6 教える場面と思考・判断・表現させる場面を意識する。  
(言語活動を支える基礎学力、個人・集団で学習する場面を意識する)
- 7 生徒の発言は受け止め、生かす。  
(発言を大切に受け止め、学習活動展開中に位置づける)
- 8 生徒の頑張りを褒めて、伸ばす。(良いところを徹底的に褒める)
- 9 ポイントを明示する等の板書の構造化を図る。  
(課題を解決する道筋がわかるような板書)
- 10 授業の振り返りを行う。  
(生徒：内容の再確認、達成感 教師：指導の自己評価、次へのつなぎ)